「秋田街道絵巻」より八橋〈部分〉（秋田市立千秋美術館蔵）

第13回
羽州街道交流会
秋田市大会

とき 令和元年 **10月19日(土)** 13:00～17:10（30分前開場）

ところ **秋田市にぎわい交流館AU**（あう）
3階 多目的ホール
（〒010-0001 秋田市中通1丁目4-1）秋田駅西口から直進600m
※お車でお越しの方は、**なかいち駐車場**など近隣の駐車場をご利用ください（有料）。

入場料 **無料** 但し事前に申し込まれた方に限ります。

【主 催】羽州街道交流会
【共 催】秋田市
【後 援】NPO法人全国街道交流会議、とうほく街道会議、ふくしまけん街道交流会、みやぎ街道交流会
風に揺らぐ紅花　六田宿、アルカディア街道IB（イザベラ・バード）倶楽部、矢立自然友の会
あおもりかいどう会議、あきた地域資源ネットワーク

秋田市の羽州街道
ホームページはこちらから
秋田市の羽州街道　検索

羽州街道交流会

奥州街道と並び、東北の二大街道の一つだった羽州街道。南の起点である福島県の桑折町で奥州街道から分かれ、宮城、山形、秋田と北に向かい、青森市の油川で再び奥州街道に合流する、総延長が約500キロの街道でした。

羽州街道交流会は、羽州街道沿線に住む個人や団体が、街道を使った地域づくりや広域交流することを目的に、平成17年に設立しました。これまで、福島県では桑折町（2回）、宮城県は七ヶ宿町（2回）、山形県は上山市、東根市、金山町、秋田県では旧六郷町（現美郷町）、旧二ツ井町（現能代市）、大館市、青森県では平川市、大鰐町、黒石市で交流大会を開催してきました。

羽州街道交流会を開催した地域では、多くのところで街道に関係する団体が、新たに誕生し、街道を使ったさまざまな活動が始まっています。初めて県庁所在地で開催することになる秋田市大会ですが、今後どのような活動が動きだすのか、非常に楽しみです。

イザベラ・バード

今から141年前の明治11年5月に横浜港に降り立ち、東京～埼玉～栃木～日光～会津～新潟～山形～秋田～青森～北海道と旅をして、その記録を『日本奥地紀行』という本に著したイザベラ・バード。イギリスの女性探検家で「ビクトリア朝 レディー・トラベラー」の筆頭として、著名な作家でもありました。

バードは、いまだ江戸時代の様相を色濃く残していた＜日本の奥地＞を人力車に乗ったり、牛馬の背に揺られ、時には自分の足で歩いたりしながら約100日間の旅をしました。梅雨のさなかであったため、多くの地で雨に降られましたが、幸い好天に恵まれた久保田（秋田市）では、洋食店で西洋料理（ビフテキやカレー）を食べ、病院や製糸工場、師範学校などを見学することができました。

本日の【鼎談１】では、バードとかかわりのある3人の方にご登壇いただき、それぞれのバードとのかかわり、バードの旅の魅力や謎などについて、ディスカッションしていただきます。

イザベラ・バード肖像
（日光金谷ホテル蔵）

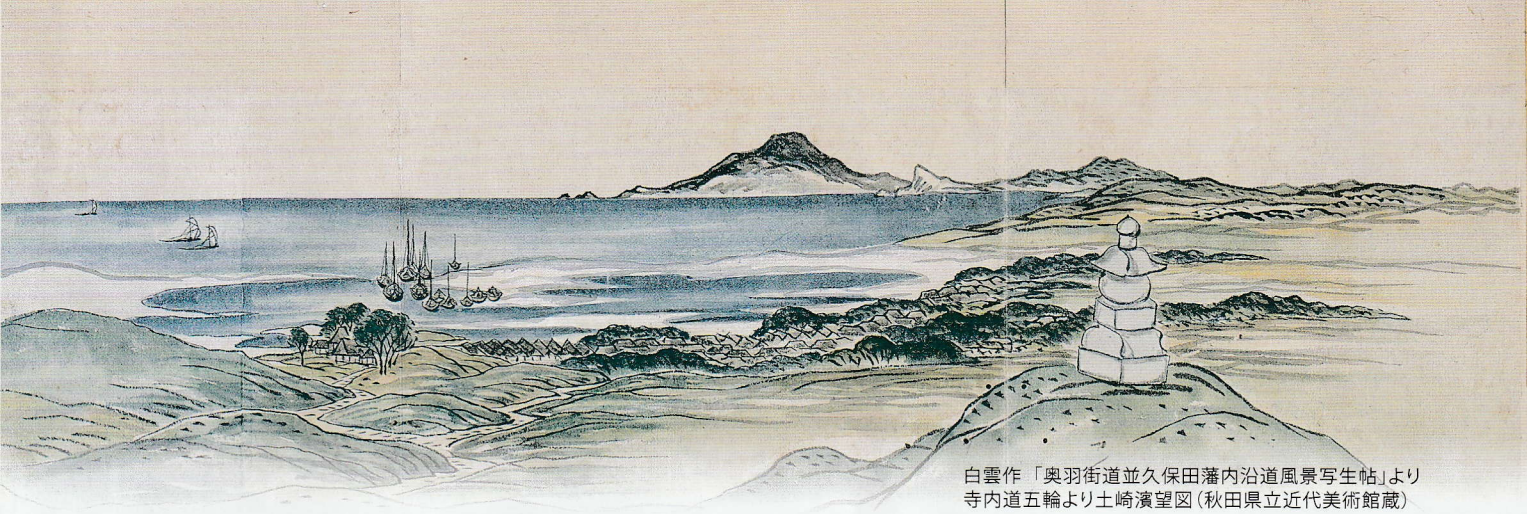
廃道

廃道とは文字通り、時代の変化などで使われなくなって廃された道を指します。江戸時代の街道とは一線を画した、主に明治以降の道を対象に、土木遺構としての魅力に取りつかれた「廃道研究家・オブローダー」として、国内最高の実績と人気を持つお二人にお話をしていただきます。

国会図書館や地域の図書館などで、明治や大正時代の古地図や新旧の地形図などさまざまな資料から、ここぞと目を付けた山の中に分け入り、藪こぎ、崩落した斜面を上り下りし、崩落したトンネルに入り、いつ落ちるかわからない橋を渡る探索行。その先にあるドラマは何を語ってくれるのか。

今回は「廃道となった秋田の峠」と題していますが、はたしてどこの峠が登場するのか？　廃道が持つ「悲喜こもごもの廃道の物語」（石井あつこ著『廃道を歩く』より）、人生を廃道歩きにかけている二人のお話に期待してください。

廃道となった田沢スーパー林道



白雲作「奥羽街道並久保田藩内沿道風景写生帖」より
寺内道五輪より土崎濱望図（秋田県立近代美術館蔵）

城歩き・まち歩き・街道歩き

この三つの歩きには共通点があります。事前に古地図や新旧地形図を丹念に調べ、各種資料をあたり、その上で自分が目指す「歩き」を目と足で実践することです。一人で歩く場合もあれば、仲間たちと歩く場合もある。そのルールは特にありません。ひたすら自分が目指す世界を見据え、歩きながらそれぞれの楽しみを味わうのです。

今回ご登壇いただく3人の方々ですが、街道沿いや城下町、宿場町に残る史跡が放つ魅力を楽しむまちや城歩き、すり鉢状や奇妙な高低差など地形が持つマジックを読み解く地形散歩、街道の魔力に取りつかれ、羽州街道をはじめとした全国の街道を歩き続けている街道歩きのスペシャリストです。その道を究めた人しか持ちえない経験をうかがい、その仲間が増えることを期待しています。

再建された久保田城の表門

牛島の太平川旧河道

羽州街道院内峠

program

オープニング　13:00〜13:20

記念鼎談 1　13:20〜14:30

明治時代のイギリス人女性旅行家の足跡から羽州街道の魅力を探る

イザベラ・バードと秋田

〈講師〉 藤原佐知子（秋田魁新報社　さきがけこども新聞編集長）
楫本　歩美（国際教養大学　助教）
鐙　　啓記（羽州街道交流会　代表幹事）

記念対談　14:40〜15:50

地図にはない歴史に埋もれた廃道探しの楽しさを語る

廃道となった秋田の峠

〈講師〉 平沼　義之（廃道探索家〈オブローダー〉）Webサイト「山さ行がねが」主宰
石井あつこ（廃道探索家〈オブローダー〉）

記念鼎談 2　16:00〜17:10

歩きと地図を楽しむ達人が見た歴史の魅力

城歩き・まち歩き・街道歩きの楽しさ

〈講師〉 小国　裕実（久保田城址歴史案内ボランティアの会会長）
柳山　　努（秋田スリバチ学会会長）
長井　克成（全国街道歩き実践者）

profile

記念鼎談 1

藤原　佐知子
秋田魁新報社さきがけこども新聞編集長

秋田市出身。1995年、秋田魁新報社入社。政治経済部次長、横手支社編集部次長、編集委員などを経て2019年4月から現職。2018年1月から1年間、秋田魁新報紙上で「イザベラ・バード　秋田の旅」を連載し、イザベラ・バードの存在を秋田県民に広く知らしめた。

椙本　歩美
国際教養大学助教

東京都出身。秋田市在住。東京大学大学院修了。農学博士。マーガレット・サッチャー財団特別奨励研究生、バッキンガム大学客員研究員を経て、現職。秋田学、地域発展論などの授業を担当。過去、秋田学の授業において、イザベラ・バードの紀行文を使った学習を行った。

鐙　啓記
羽州街道交流会代表幹事

旧飯田川町出身。秋田市在住。元無明舎出版編集長、特定非営利活動法人東北みち会議理事長、東北「道の駅」連絡会事務局長。羽州街道をはじめとした東北の街道を使った活動のほか、北前船、イザベラ・バードなどをテーマにした活動を行っている。

記念対談

石井　あつこ
廃道探索家（オブローダー）

東京都生まれ。新旧の地形図を見比べ、廃道探しをすること十数年。NHK「廃道熱中人」「新日本風土記」、日本テレビ「沸騰ワード」等、メディアに度々取り上げられるほか、日活「廃道」DVDシリーズに出演。定期的に新潮講座や毎日新聞旅行にて廃道ツアーを開催している。まだ見ぬ過去の道を追い求め、精力的に活動中。

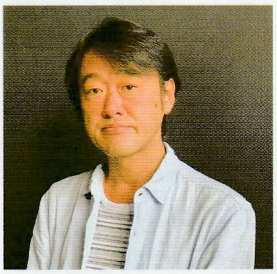
平沼　義之
廃道探索家（オブローダー）

1977年生まれ。秋田市在住。中学生時代、自転車で林道を走る「山チャリ」の楽しみに目覚めるも、仙岩峠旧道の探索をきっかけに、興味の中心は歴史ある峠の廃道へ。廃道探索で生計を立てる日本初のプロ・オブローダーとして活動中。道路マニア・トンネルマニアとしても各種メディアに出演。『国道？　酷道!?　日本の道路120万キロ大研究』『廃道探索　山さ行がねが』（いずれも実業之日本社）などの著書がある。サイト：「山さ行がねが」 https://yamaiga.com/

記念鼎談 2

小国　裕実
久保田城址歴史案内ボランティアの会会長

旧増田町生まれ。日本近代経済史専攻。秋田市立佐竹史料館長、秋田市企画調整部長、秋田市立中央図書館明徳館長などを歴任。久保田城址歴史案内ボランティアの会会長として、久保田城下の史跡案内・調査・研究に取り組んでいる。共著『秋田市の史跡めぐり』『土崎図書館100年史』『目で見る秋田・男鹿・南秋の100年』などがある。



柳山　努
編集者・ライター・秋田スリバチ学会会長

1967（昭和42）年生まれ。秋田高校、早稲田大学卒。新潮社勤務の後、2016（平成28）年独立。翌年帰郷し「秋田スリバチ学会」を設立。「地形」をキーワードに秋田の歴史や文化を面白がり、発信する活動を続けている。現在、秋田魁新報紙上にて「気ままに凸凹街歩き」を連載中。

長井　克成
全国街道歩き実践者

福岡県北九州市在住。仕事からの引退を契機に2006年6月にスタートした旧街道歩きは、2008年12月に日本縦断を達成、2012年6月9日には日本一周を達成した。羽州街道は2012年4月から6月に48日かけて歩きとおした。街道歩きの記録は、インターネット上の「シングルおやじの気ままな一人旅」として公開しながら、現在も街道歩きを継続している。